

タイトル	表紙・目次・論文扉・奥付
著者	
引用	年報新入文学(21)
発行日	2024-12-25

新 人文学

Annual Bulletin
of the
New Humanities
Vol. 21

【巻頭言】

人の「こえ」を聴く 徳永良次

【論文】

Japanese Prostitutes in French Indochina

Chie SEMBA

環北太平洋の後期完新世における
海洋航海の発展と複雑化した狩猟採集

社会との関係 手塚 薫

笹井宏之の短歌の研究 その二

—第二歌集『てんとろり』における身体語彙「ゆび(指)」を中心に—
大村勅夫

『宝物集』における天皇 伊藤翔太

歴史的風致として選定された小樽の祭礼文化

—水天宮多賀神社例大祭と「歴史まちづくり法」—
蟬塚咲衣



芥川龍之介『河童』の一考察

—「対」と「ずらし(ずれ)」の視点から—

太田幸夫

宮本百合子『道標』と三浦綾子『銃口』

—タイトル「銃口」をめぐる一考察—

林 香苗



●【研究ノート】

ブッカー・T・ワシントンとは何者か？

—アメリカ黒人「保守」思想の「源流」をめぐる議論の再整理—
大森一輝

●【資料紹介】

翻刻『八雲路日記 三上』(→)

武田佑希子

●【解説シリーズ】今、何が起きているのか？

第二回 台湾ポストニューシネマ

—『KANO 1931 海の向こうの甲子園』

—についてのポストコロニアル批評の試み—
大石和久

【彙報】 令和五年度 大学院文学研究科

学位論文題目一覧／

文学研究科教育・研究発表活動／編集後記

人のこえを聴く
徳永良次……002

Japanese Prostitutes in French Indochina Chie SEMBA 30
(001)

環太平洋の後期完新世における海洋航海の発展と

手塚薰……………275
(033)

笛井宏之の短歌の研究 その二

—第二歌集『てんとろり』における身体語彙「ゆび（指）」を中心に—

『宝物集』における天皇
伊藤翔太……………046

歴史的風致として選定された小樽の祭礼文化

蟬塚咲衣……………251
(057)

—水天宮多賀神社例大祭と「歴史まちづくり法」—

芥川龍之介『河童』の二考察——「対」と「ずらし(ずれ)」の視点から—— 太田幸夫……078

宮本百合子『道標』と三浦綾子『銃口』
——タイトル「銃口」をめぐる一考察——
林香苗……112

●「研究ノート」

ブッカー・T・ワシントンとは何者か？

—アメリカ黒人「保守」思想の「源流」をめぐる議論の再整理—

●【資料紹介】
翻刻『八雲路日記 三上』(一)

武田佑希子……………180

●解説シリーズ今、何が起きているのか？

第二回 台湾ポストニューシネマ

『KANO 1931 海の向こうの甲子園』

についてのポストコロナル批評の試み――

令和五年度 大学院文学研究科 文学研究科教育・研究発表活動 編集後記	学位論文題目一覧……………308 ……………314 ……………316
--	--

文学研究科教育・研究発表活動…………… 314

編集後記…………… 316

年報
新
人文学

第二十一号
二〇二四年十二月発行
目次

Annual Bulletin
of the
New Humanities Vol. **21**

Annual Bulletin of the New Humanities

Vol. 21

December 2024

Contents

Foreword

Yoshitsugu
TOKUNAGA Listening to People's "Voice"

Articles

- Chie SEMBA Japanese Prostitutes in French Indochina
- Kaoru TEZUKA The Interaction of Complex Hunter-Gatherer's Societies with
the Development of Seafaring Technology in the Late Holocene
in the North Pacific Rim
- Tokio OMURA Study of the Tanka of Hiroyuki Sasai Part2: Focusing on Body
Vocabulary "Fingers" at the Secondbook *Tentorori*
- Shota ITO Emperor in *Houbutsusyu*
- Sakie SEMIZUKA Otaru's Festival Culture Selected as Traditional Scenery:
Suitengu Tagajinja Shrine Festival and "The Act on Maintenance
and Improvement of Traditional Scenery in Certain Districts"
- Yukio OHTA A Study of Ryunosuke Akutagawa's "*The Kappa*":
From the Perspective of "Tui" and "Zurashi" ("Zure")
- Kanae HAYASHI An Analysis of Ayako Miura's Novel "*Juko*":
Examining the Influence of Yuriko Miyamoto's "*Dohyo*"

Essays

Kazuteru OMORI The Strange (Posthumous) Career of Booker T. Washington:
Reconsidering the Origins of Black Conservatism

Document Introduction

Yukiko TAKEDA Reprint of "Yakumoji-Nikki 3(1)" Part 1

Exposition

Kazuhisa OISHI Exposition Series: What's Going On Now?
Taiwan Post-New Cinema: A Post-Colonial Essay on *KANO* (No.2)

Notes

Editorial Notes

論文



Japanese Prostitutes in French Indochina Chie SEMBA

環北太平洋の後期完新世における海洋航海の発展と
複雑化した狩猟採集社会との関係 手塚薫

笹井宏之の短歌の研究 その二 大村勅夫
—第二歌集『てんとろり』における身体語彙「ゆび(指)」を中心に—

『宝物集』における天皇 伊藤翔太

歴史的風致として選定された小樽の祭礼文化 蟬塚咲衣
—水天宮多賀神社例大祭と「歴史まちづくり法」—

芥川龍之介『河童』の一考察 —「対」と「ずらし(ずれ)」の視点から— 太田幸夫

宮本百合子『道標』と三浦綾子『銃口』 —タイトル「銃口」をめぐる一考察— 林香苗

◆表紙の「ふくろう」について

表紙に描かれている「ふくろう」には、二重の意味が込められています。ひとつは古代アテネの「ミネルヴァのふくろう」に由来する、「知恵ないし学問」の象徴という意味です。哲学者ヘーゲルが、「ミネルヴァのふくろうは、日の暮れ始めた夕暮れとともに、はじめてその飛翔を始める」と述べたことは、つとに有名です。

もう一つの意味は、北海道に生息する天然記念物「シマフクロウ」に由来しています。シマフクロウは、北海道のなかでも手つかずの自然が残っている場所にしか生息しませんが、その表情には思慮深い哲人を思わせる威厳があります。古来アイヌの人たちは、この鳥をコタンコロカムイ（村の守護神）と呼んで神聖視してきました。

本誌は、この「ミネルヴァのふくろう」と「シマフクロウ」にあやかっ、北の大地から新しき学問の地平をきり拓くべく、大いなる飛翔の場たらしめるものです。

年報 新人文学〔第二十一号〕 Annual Bulletin of the New Humanities

発行日——令和六（二〇二四）年十二月二十五日 発行

編集者——北海道大学大学院文学研究科『年報 新人文学』編集委員会

北海道大学大学院文学研究科内

〒〇六二―八六〇五 北海道札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号

電話（〇二）八四一―一六二〔代表〕 FAX（〇二）八四一―七七二九

編集委員——手塚薫＋仲丸英起

発行者——郡司淳

発行所——北海道大学大学院文学研究科 札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号 電話（〇二）八四一―一六二〔代表〕

